

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>自主・自律・貢献の精神を涵養し、グローバル社会の変化に主体的に対応して、納得して自らの人生を形成できる活力溢れる人材を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 変化する社会を自分の視点で捉え直し、考えが異なる相手にも論理的に意見を主張し、共通の合意を見出すコミュニケーション能力を育成する。 2. 自己実現を図る進路目標の設定と希望進路の実現必達を支援する。 3. 学校行事や部活動等の幅広い体験を通して、知・徳・体の調和のとれた人格を陶冶する。

2 中期的目標

<p>1 「授業で勝負」の理念で、「21 世紀型学力」の育成に挑戦 授業力向上の取組みを学校組織として継続し、教科指導研究委員会を中心に、教科指導の質的進化を図る。</p> <p>(1) アクティブ・ラーニングの推進。 (2) ICT活用を含め、全教科で一層「わかる授業」を展開。 (3) 知識・技能定着に加え、発展的学力（思考力・判断力・表現力）や「学び続ける力」の育成。 ア 土曜講習や少人数展開授業の充実、着実な知識・技能の習得。 イ 朝読書、総合的な学習の時間・HR等の活用による言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成。 ウ 自学自習力育成（自習習慣の確立）と自習環境の整備。</p> <p>* 学校教育自己診断において、授業の理解度・満足度ともに、平成 30 年度までに 85%をめざす。(27 年度：理解度 76%・満足度 67%) * 授業評価アンケートの自学自習項目の肯定率：平成 30 年度までに 3.0 ポイント（満点 4.0）をめざす。(27 年度 2.61 ポイント)</p>
<p>2 「志」の育成と生徒全員の進路保証実現 学ぶための「志」を育成し、目標に対して安易な妥協をさせない進路指導を実施する。</p> <p>(1) キャリア・ガイダンス充実、高大連携企画（大教大府立高校教職コンソーシアム・大阪大学基礎セミナー）や社会人講話の推進。 (2) 進路情報の基礎となる全国模試の全学年・全員受験推進。 (3) 3 年間の進路指導計画充実と、豊富な進路指導情報提供。</p> <p>* 学校教育自己診断における、進路関係項目の肯定率を平成 30 年度までに 90%をめざす。(27 年度平均 86%) * 平成 30 年度までに、3 年生の国公立大学合格者 30%以上をめざす。(27 年度合格者 20%)</p>
<p>3 総合的な「人間力」育成</p> <p>(1) 3 年間の教育（生徒育成）プログラム構築。 (2) 学習と部活・行事を両立させる生徒育成。 (3) 朝読書や「池田高校の 100 冊」活用により読書習慣確立、図書館利用の促進。 (4) 教育相談体制充実。 (5) 国際理解教育推進、国際社会を生きる実践的英語力向上。</p> <p>* 学校教育自己診断「勉強と部活の両立」の肯定率を平成 30 年度までに 80%まで上昇させる。(27 年度 63%) * 平成 30 年度までに月 2 冊以上読書する生徒（2 年生）の比率を 80%にする。(27 年度 34%)</p>
<p>4 本校の安全安心基盤、広報体制充実</p> <p>(1) 本校独自の災害対策マニュアル策定とその周知徹底。 (2) 学校HP内容充実、ネット（携帯・スマホ）リテラシー啓蒙。 (3) 中学生生徒に向けた広報活動推進。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒】（前年比 5%以上向上したのは 9 項目、低下したのは 1 項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校に行くのが楽しい」生徒は 85%で水準に問題ない。 ○授業内容に関する質問の肯定率は改善 (例)「学力のつく授業が多い」67%⇒70%（昨年度からの質問） 「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」47%⇒56%⇒65%（過去 3 年） ○「勉強と部活動の両立ができていく」のみ、60%⇒63%⇒53%と肯定率は下がった。 ノークラブデーの徹底や自学自習習慣の定着が課題。 ○HR活動、人権学習、国際理解、福祉ボランティアに関する質問で、前年比 8%～10%改善 (例)「命や人権の大切さについて学ぶ機会がある」64%⇒61%⇒71%と大幅増加（過去 3 年） 「環境、国際理解、福祉ボランティア等の新しい課題について学習する機会がある」57%⇒63%⇒71%と大幅増加（過去 3 年） ○「校長先生の考えや話は興味深く、よくわかる」は、76%⇒77%⇒82%（過去 3 年）と増加 ○危機管理体制については、生徒向け防災マニュアルを周知した結果、大幅に改善 (例)「災害が起こった場合、どのように行動をとればよいか具体的に知らされている」53%⇒48%⇒68%と改善（過去 3 年） <p>【保護者】（前年比 5%以上向上したのは 12 項目、低下した項目無し）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育相談、施設・設備に関する質問の肯定率が改善しつつも水準がまだ低い。 継続的に取り組むべき課題である。 <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導内容を他の教科と話し合う機会(25%)、評価について話し合う機会(45%)の肯定率が低い。 ○アクティブ・ラーニングを意識した授業の実践(60%⇒74%に増加) ○校長の教育理念の明確化(肯定率 96%)、校長のリーダーシップ(83%)と合わせ、学校運営面は安定した水準。 	<p>【第 1 回】平成 28 年 5 月 31 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アクティブ・ラーニングについて ・大学においては入試改革が行われており、今後AO入試が拡大する傾向にある。このような現状からアクティブ・ラーニングを推進していくことは意味がある。 ○学習習慣について ・1、2 年は部活動中心になり、3 年から本格的に学習に取り組む生徒が多いことが課題であるなら、部活内で学習に関する刺激を与える仕組みを作っていったらどうか。 ○実力テストの在り方について ・実力テストを廃止し、業者の模擬テストを活用することは、データの蓄積、教員の多忙解消の観点から利点が多い。その分、教員にしかできない仕事に余裕をもって臨める体制づくりが重要。 ○広報活動について ・授業改革、進学実績、その他良くなっている点を生徒、保護者、中学校等に積極的発信してほしい。 <p>【第 2 回】平成 28 年 11 月 22 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業評価について ・自学自習項目の評価が相対的に低いのが気になる。 ○NET（外国語指導員）の授業について ・日本人教員との連携が図れて、昨年度より授業内容がレベルアップしている印象を受けた。 <p>【第 3 回】平成 29 年 2 月 3 日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育自己診断アンケートについて ・質問項目によって、自分のことか、生徒全体のことか、質問の趣旨が曖昧なものがある。全員が答えるものと当該経験があったものと区別する等、質問の仕方をもう少し工夫すべきではないか。 ・保護者アンケートではまだ学校施設に対する評価水準が低いので、改善しつつもまだ課題である。 ○学校ホームページについて ・ホームページを一層充実させることはできないか。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
二十一世紀型学力育成に挑戦	(1) アクティブラーニング推進	(1) アクティブラーニング推進 ① 教科指導研究委員会を中心とした授業改善の取組み推進。(アクティブラーニング研究会発足) ② アクティブラーニング先進校への教員派遣 ③ 生徒の授業参画意識を促進する指導の工夫・改善。	(1) アクティブラーニング推進 ① 授業アンケートの「興味・関心」「理解度」目標各3P以上 (4P満点) ② アクティブラーニング先進校へ教員派遣4名以上 ③ 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表することが多い」の肯定率60%以上 (前年度56%)	① 授業評価アンケート 授業の「興味・関心」(3.03P) 授業の「理解度」(3.06P) (○) ② 先進校教員派遣(3名) (△) 東京都立小石川中等教育学校(3名) ③ 学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表することが多い」の肯定率65%(◎)	
	(2) ICT活用と「わかる授業」の展開	(2) ICT活用と「わかる授業」の展開 ① ICT利用教員数増加、そのためのICT環境の整備改善。 ② 教科毎及び学校全体の公開授業実施 ③ 教員間の互見授業推進 ④ 授業評価に課題がある教員は授業改善シート等を活用し改善努力。授業全般に生徒理解度を上げる。	(2) ICT活用と「わかる授業」展開 ① ICT活用教員目標65%以上(前年度:72%) ② 公開授業週間を年間2回以上設定 ③ 授業互見回数一人平均2回以上。 ④ 授業評価で授業理解度項目3P以上の教員数65%以上(前年度68%) ・学校教育自己診断(生徒)肯定率「授業はよく理解できる」:75%以上(前年度:76%) 「教え方に工夫をしている先生が多い」:75%以上(前年度:74%)	① ICT活用教員:66%(○) ② 公開授業週間:3回(6月10月11月)(○) ③ 授業互見回数:一人平均2回以上達成(○) ④ 授業評価で授業理解度項目3P以上の教員数:76%(◎) ・学校教育自己診断(生徒)肯定率「授業はよく理解できる」:75%(前年度76%)(○) 「教え方に工夫をしている先生が多い」:72%(△)	
	(3) 知識・技能の定着、発展的学力や学び続ける力の育成。	(3) 知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成	(3) 知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成	(3) 知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成	
	ア 土曜講習や少人数展開授業充実	ア 土曜講習や少人数展開授業充実 ① 土曜講習・課外講習・補習の内容精選、年間を通じた計画的補習実施。 ② 英語少人数授業の充実による学力向上。	ア 土曜講習や少人数展開授業充実 ① 土曜講習出席者目標:2年・3年各250名以上 ② センター試験英語平均点:65%以上(前年度62%)	① 土曜講習出席者:2年(320名)3年(290名)(○) ② センター試験英語平均点:70%(◎)	
	イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成。	イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成。 ① スピーチコンテスト、ディベート、エッセイ作成等、生徒自身によるアウトプットの機会を捻出。	イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成。 ① 生徒による自己表現の取組機会を年間2回以上設定する。	① 生徒による自己表現の取組機会: ・スピーチコンテストの実施(1年) ・JICAエッセイコンテスト全員参加(1年)、更に保健(2年)情報(1年)でディベート取組み(◎)	
	ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。	ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。 ① チューター制度推進等、生徒の自習機会増加。自習室は平日夜間(放課後~19:30)土曜日(9:00~16:00)開室。 ② 新入生対象(勉強方法)オリエンテーション実施。自学自習の方法を指導。 ③ 家庭学習量調査、自己学習時間増加。	ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。 ① 自習室利用者数前年対比増加(前年度は114%増加) ② 授業アンケート:自学自習2.7P以上(前年度2.61P) ③ 自主学習1日2時間以上の生徒数比率:60%以上(前年度43%)	① 自習室利用者数前年対比増加: 2学期に計3週間の普通教室における自習推進週間を設定したことにより、前年比115%になる。(○) ② 授業アンケート自学自習:2.60(△) ③ 自主学習1日2時間以上の生徒数比率:44%(△)	
「志」の育成と全員の希望進路実現	(1) キャリアガイダンス充実	(1) キャリアガイダンス充実 ① 大学見学会、学部学科説明会、教育実習生懇談会等実施。特に生徒のロールモデルとなる社会人講話を拡大して実施。 ② 大教大府立高校教職コンソーシアム活用 ③ 大阪大学基礎セミナー受講促進 ④ 学校長の新入生向け講話(ガイダンス)実施、	(1) キャリアガイダンス充実 ① 拡大版社会人講話の新規実施 ② 大教大オープンスクール生徒参加目標:15名 ③ 阪大基礎セミナー受講生徒:5名以上 ④ 4~5月に新入生対象に講話一回実施	① 拡大版社会人講話の新規実施 ・2、3年生を対象に新規実施(10月) ・1年対象にも多様な社会人を招聘した社会人講話を新規実施(5月)(○) ② 大教大オープンスクール参加生徒:9名(△) ③ 大基礎セミナー受講生徒:3名(△) ④ 1年対象に講話1回実施(4月)(○)	
	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 学力指標としての全国模試等の、全学年全員受験を推進する。	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 学力指標とする全国模試等の導入回数増加及び生徒受験率100%	① 全国模試導入回数増加 1年2年各2回(前年比+1回) 3年4回受験(前年比+3回) 全て全員受験達成(○)	
	(3) 進路指導充実	(3) 進路指導充実 ① 3年間の進路指導計画(MAP)策定と計画的な進路情報提供 ② 3年生向け特別講習の充実等を背景とする進路実績向上	(3) 進路指導充実 ① 学校教育自己診断(生徒)「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率:80%以上(前年度84%) ② 現役国公立合格者:学年の23%以上(前年度20%)	① 学校教育自己診断(生徒)「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率:84%(○) ② 現役国公立合格者 学年の22%(△)	

府立池田高等学校

総合的な「人間力」育成	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム構築	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム構築 ① 3年間の時期に応じた育成ポイントを設定、その趣旨に叶う行事や取組みとなるよう見直したうえで3年間の育成プログラムを策定する。 ② 3年間のプログラムの中で生活指導の重点ポイント(登校指導期間、挨拶励行指導時期、通学マナー指導期間等)を設定、生活習慣や規律規範を確立させる。	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム構築 ①プログラムを完成させ、早期に教員・生徒に周知。 ②学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」:肯定率80%以上(前年度72%) 学校教育自己診断(教員)「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」:肯定率80%以上(前年度83%)	① プログラムを完成させ、周知済み。(○) ② 学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」:肯定率68%(△) 学校教育自己診断(教員)「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」:肯定率78%(△)
	(2) 学習と部活・行事の両立	(2) 学習と部活・行事の両立 ① 自学自習プロジェクトチーム中心に学習・部活両立に向けた取組み推進 ② 部活の活性化、生徒の活躍推奨。	(2) 学習と部活・行事の両立 ①学校教育自己診断(生徒)「勉強と部活の両立」の肯定率:70%以上(前年63%) ②部活動加入率:90%以上(前年度90%) 団体又は個人で近畿大会以上の出場を果たす	①学校教育自己診断(生徒)「勉強と部活の両立」の肯定率:53%(△) ② 活動加入率:90% (○) 団体又は個人で近畿大会以上の出場達成(○) ・全国高校総合文化祭(囲碁団体) ・近畿大会(ソフトテニス団体) ・関西高等学校選手権大会(アメリカンフットボール)
	(3) 読書習慣確立	(3) 読書習慣確立 ① 朝読書推進、教科学習活動に「池田高校の100冊」を活用する等、生徒の読書意欲を高揚させる。 ② 図書室利用の推進	(3) 読書習慣確立 ①月間平均2冊以上読書する生徒比率:50%以上(前年度30%) ②図書室貸出冊数前年比10%以上増加(前年度は朝読書導入で76%増加)	①月間平均2冊以上読書する生徒比率:33%(△) ②図書室貸出冊数前年比24%減少(△)但し、朝読用に自ら書籍を購入する生徒が増加したことが背景にある
	(4) 教育相談体制充実	(4) 教育相談体制充実 ① 教育相談体制やスクール・カウンセラー相談日の周知徹底。教育相談委員会を年間10回実施。	(4) 教育相談体制充実 ①学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって相談になって応じてくれる先生が多い」:肯定率70%以上(前年度66%)	①学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって相談になって応じてくれる先生が多い」:肯定率65%(△)
	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ①従来のオーストラリア語学研修に加え、更に実践的英語力を磨く英国語学研修を並行実施。1年生対象に国際理解教養講座を実施。 ②LL教室や米人NET活用、米人教師との英会話ランチミーティング等、英語4技能の能力を向上させる。	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ①語学研修生派遣人数目標 オーストラリア研修30名以上(前年38名) 英国研修10名以上(前年9名) ・語学研修実施後の生徒肯定率:オーストラリア、英国とも90%以上(前年100%) ②GTEC得点平均:(1年生2年生各)450点以上(前年度:1年生439点 2年生447点)	①語学研修生派遣人数目標 オーストラリア研修:35名 英国研修:7名 (○) ・語学研修実施後の生徒肯定率:オーストラリア、英国とも100%(○) ② GTEC得点平均: 1年生 438.6点(△) 2年生 461.1点(○)
学校安全基盤・広報体制の充実	(1) 本校独自の災害対策マニュアル策定	(1) 本校独自の災害対策マニュアル策定 ①首席中心に災害対策検討チーム発足。	(1) 本校独自の災害対策マニュアル策定 ①生徒用災害対策マニュアル作成と避難訓練等による周知徹底	① 生徒用災害対策マニュアル作成と避難訓練等による周知徹底実施。その結果、学校教育自己診断(生徒)「災害に対して具体的な行動を知らされている」の肯定率が48%から68%に上昇(○)
	(2) 学校HP内容充実とSNSリテラシー教育	(2) HP内容充実とSNSリテラシー教育 ① 学生、保護者向けの内容充実、更新スピードアップ。 ② SNSの持つリスク等に関するリテラシー教育を実施する。	(2) HP内容充実とSNSリテラシー教育 ① HP週2回以上更新(前年度週2回更新) ② SNSリテラシー教育講座を生徒・保護者・教員向けに1回以上実施。(前年度各1回実施)	① HP週2回以上更新を継続維持(○) ② SNSリテラシー教育講座を生徒・保護者・教員向けに1回実施。(携帯電話会社、通信ソフト企業から講師を招聘、講演会実施)(○)
	(3) 中学生徒にむけた広報活動推進	(3) 中学生徒向け広報活動推進 ① 従来のオープンスクールに加え、土曜日(土曜講習)を利用した中学生見学会を実施。	(3) 中学生徒向け広報活動推進 ①オープンスクールと学校見学会(3回)合計1000名以上招致。	① オープンスクールと学校見学会(3回)合計1000名以上招致:合計1217名の参加(◎)